

普代村教育ビジョンと小中一貫教育

普代村教育委員会

教育長 熊坂伸子

普代村教育ビジョンと小中一貫教育と題して報告させていただきます。

普代村の一番の特徴は、子どもたちに寄せる地域の愛情、眼差し、地域の教育力がまだたくさん残っていることです。この地域の教育力を、学校教育、社会教育に活用していこうというのが、基本的考え方です。

平成20年10月に、「普代村教育ビジョン」を策定いたしました。これは、私案をもとに約2年間かけて村政懇談会や議員との懇談会でご意見をいただき、村長あるいは学校関係者等と練り上げて、最終的には教育委員会の定例会で正式に決めていただいたビジョンです。地域と共にある学校、学校と地域がWin-Winの関係の普代型スクールコミュニティというものを基本にしたビジョンです。

普代村は、地域の方々の教育力がまだありますので、さらに充実させていろいろな方面で活用しています。例えば、乳児検診の待ち時間を利用してのボランティアの読み聞かせの指導や子どもたちへのマイブックプレゼント、小学校低学年のサタデースクールの講師、普代神楽の指導等、いろいろなところに地域の方々の力を活用しています。

普代型スクールコミュニティ構想についてですが、平成20年当時、普代村には幼稚園も保育園もなく、無認可の保育所扱いの保育型児童館が福祉課管轄でありました。これを教育委員会の管轄にして、認定こども園的な0歳から就学前の子どもたちの教育を一手に引き受ける子どもセンター（仮称）にするという構想を立てました。小中学校は児童生徒の減少や学力向上のメリット等を勘案して、施設一体型の小中一

貫校を構想しました。さらに、幼児教育と小中学校の人材育成方針を共有していこうという考えです。このように、幼児教育、小中学校の教育に村民の皆様とともに積極的に協働していこうというスクールコミュニティ構想が普代村教育ビジョンの核をなす考え方です。



認定こども園的な構想を持って、ビジョンがスタートしたのですが、村の理解と協力をいただいて、本物の認定こども園を開園しました。

一方、小学校は、小規模校が多かったので、平成20年4月までに普代小学校1校に統合しています。そして、小学校と中学校の学区が同じ学区になりましたので、そのメリットを活かして、まずは隣接型の小中一貫教育を始めました。

普代の小中一貫教育の構想の核は、学校だけで教育を完結させるのではなく、地域と共にあるということです。つまり、幼児教育から小中学校までという縦軸と、地域、家庭、学校、行政の横軸の連携、両方が、縦糸と横糸を紡ぐような一枚の布のようなイメージを普代の教育全体で意識しています。そして、普代村の小中一貫教育の目的は、子どもたちの幸せ、村民のみなさんの幸せ、それを目指して学校教職員と共に力を合わせていくということです。

小中一貫教育を始めるに当たりまして、まず地域の方々で、どういう小中一貫教育を進めたいのか、どういう15歳の姿を育てていくのかという話し合いを約1年間行いました。話し合っているうちに、村民の方々の意識も変わってきました。そして、普代村の15歳の目指す姿として、「育ちあい、助けあい、認めあい“愛”がいっぱい普代っ子」というとてもかわいらしいキャッチフレーズのような目指す姿を答申してくださいました。実はこのかわいらしいキャッチフレーズの中身はとても深いです。「育ちあい 夢を持ち、進んで学ぶ、元気な子ども」は、学力向上を目指した言葉です。「助けあい

思いやりを持ち、心を開き、笑顔であいさつする子ども」は、普代村の課題であるコミュニケーション力をどうやって子どもたちに付けたらよいかということです。そして、「認めあい

自信を持ち、互いの良さを知り、共に生きる子どもたち」は、普代村の大きな課題になっている自尊感情を何とか育みたいという大きな柱です。村民のみなさんを巻き込んで、普代村の目指す15歳の姿を共有した次の年には、小中学校の先生方が、その目標を実現するために学校教育をどのように進めていくのかという話し合いもワークショップ形式で行いました。小中学校の先生方が一緒に話し合いを始めた最初の頃は、明らかに小学校と中学校の先生で雰囲気は違っていました。でも、話し合いを何度も続ける中で、小学校か中学校か見分けがつかなくなったときがありました。私は、その時、「やった。」と思いました。小中一貫教育は、先生方が変わる取組であると思っておりますが、普代村の先生方は、約1年間協議を重ねる中で、本当に垣根がなく、遠慮なく話し合いができる状況になってきました。

幼・小連携の研究会は、小中一貫教育よりちょっと遅れて始まりました。平成25年度の秋には、こども園の公開を予定しています。その中で、小学校との連携、普代村の幼児教育の充実について発表させていただこうと思います。

小中一貫教育を始めて3年経過したところですが、成果が出ています。岩手県学習定着度状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果をみますと、例えば平成21年当時の小学校5年生の算数を県平均と比較すると87%でございました。平成22年、算数への相互乗り入れを試しに始め、平成23年から本格的に乗り入れをしています。すると、平成23年度123%、平成24年度125%と着実に伸びてきているのが分かります。普代村の子どもたちの成績が、県の平均を上回るというのは画期的で、村としては一大事でした。さらに、平成24年度は全国学調において、全国平均をも上回りました。

最後に、普代村の教育のこれからですが、こども園は、今年秋、研究指定2年目で公開いたします。それから、小中学校では小中一貫教育のメリットを活かした普代村ならではのカリキュラムづくりへと研究のステージを進めてもらいます。また、地域の方々が学校の取組を常に見守る、口を出すという形にしていきたいと思っています。今年1月、文科省型のコミュニティスクールに小中同時に指定させていただきましたので、小中合同の学校運営協議会を立ち上げ、これまでよりさらに権威と影響力を強めて、地域の方々が、学校運営に一歩も二歩も踏み込んで参画していただけるようになりました。

先日ある講演会で、「教育とは子どもたちを幸せにすることである」というお話を聞いて、私は雷に打たれたようになりました。いじめ、体罰の問題等、様々ありますけれども、子どもたちの幸せを常に肝に銘じて取り組んでいきたいと思っています。普代村は小さい村ですので、少子化問題を抱えています。しかし、小さくても、子どもたちのためにやれることはたくさんありますので、先生方と力を合わせて、子どもたちと村民のみなさんの幸せを目指して取り組んでいきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。